

# 使える!?ヨコハマの子育て支援 ー現在、そして未来ー 実施概要

- 実施日等 平成23年1月23日(日) 13:00~16:00 横浜市社会福祉センター 参加者 110人  
■主催 横浜市こども青少年局・よこはま一万人子育てフォーラム

## かがやけ横浜こども青少年プラン後期計画の概要について

説明者：井尻 靖 横浜市こども青少年局企画調整課長

- ▶ かがやけ横浜こども青少年プランは、次世代育成対策推進法に基づき市町村が策定する計画。平成17年策定の前期計画に引き続き、後期計画を策定。計画期間は平成22年から26年までの5年間。
- ▶ 「4つの施策分野と10の基本施策」の構成で、横浜市で行う子ども・青少年施策を網羅している。
- ▶ 計画をつくるだけでなく推進していくために、こうしたシンポジウム等を通じて現場の声を聞くなどして、事業展開の工夫や計画の評価の参考とさせていただきたい。

## パネルディスカッション 「使える!?ヨコハマの子育て支援 ー現在、そして未来ー」

コーディネーター

高橋 勝 横浜国立大学教育人間科学部教授  
横浜市次世代育成支援行動計画推進協議会会長

パネリスト

山田美智子 西区こんにちは赤ちゃん訪問事業訪問員  
高村美智子 戸塚区地域子育て支援拠点「とっとの芽」施設長  
木村真佐子 横浜子育てサポートシステム緑区支部コーディネーター  
伊藤 保子 NPO法人さくらんぼ(瀬谷区「さくらんぼハウスWith」)理事長  
田中 博章 横浜市こども青少年局子育て支援課長  
中西美和子 横浜市こども青少年局親子保健担当課長



### ◆まとめ◆

- ▶ 行政を含め、支援する側・される側が双方向のコミュニケーションを取り、関係をつなげ循環させていくことが、社会全体の子育て力を高めていく。
- ▶ 地域における市民の支援と専門家の支援をつなぎ、組み合わせていくような支援体制が大切である。
- ▶ 行政・NPO・市民が共に子育て支援を進めていく姿勢が必要で、それによって支援がきめ細かくなるとともに密度も濃くなっていく。

### ◆パネリストの携わる団体・事業について

山田氏

- ▶ 赤ちゃん訪問員を市民が担う意義は、同じ立場でお母さんに共感し多くの話を聞けることと、パンフレット等の紙媒体の情報に、言葉による付加価値を付け、地域の活きた情報を渡せるということ。
- ▶ 訪問時は、赤ちゃんの様子だけでなく、お母さんが心身ともに無理をしないことや、親子で行ける地域の身近な居場所を案内する。結果、赤ちゃん教室などに参加し始める月齢が低くなっている。

高村氏

- ▶ 団地に住む子どもたちの成長に合わせてできた3団体がグループ化し、親と子のつどいの広場、地域子育て支援拠点の運営を行っている。
- ▶ 旧来の団地にある施設では、かつての利用者がスタッフになるなど、人材の循環が見られる一方、人口の増加・流動が激しいエリアの施設では、つながりを求めて来る人も多く、お父さんや外国籍の方など、利用者層も多様である。

木村氏

- ▶ 子育てサポートシステムは、行政の支援の隙間を市民の力で埋めている。預ける人と預かる人の双方が信頼関係を持ち、気持ちよく利用できるようなコーディネートを中心にしている。
- ▶ 例えば家事援助などの支援を必要としている場合もあるが、子どもに関することしかできないため、他のサービス、機関と連携したサポートをしていくことが必要だと感じている。

## 伊藤氏

- なにがあれば子育てが楽になるかから始まり、使い勝手の良さを求めた結果、事業が増え多機能になっていった。結果、1つのケースに複数のサービス提供が必要な場合も法人内で対応できている。
- 助けてと言葉にしにくいお母さんが増えていると感じ、親と子のつどいの広場では会員制を取り、スタッフや会員同士のつながりも含めた関係性の強さの中で、適度な支援を行っている。

## 田中氏

- 市全体で見ると人口は増える一方で出生数・就学前児童数は減少しているが、就学前児童数が増加している区や地域がある。また、時代の経過とともに増加エリアにも変化が生じている。
- 現在の地域における子育て支援施策のほとんどがこの10年間にできたもので、現場で抱える現状や課題を察知し対応することで、作り上げていく必要があると感じている。

## 中西氏

- 晩婚化に伴う出産年齢の高齢化や、不妊率の増加が推測される中、母子健康手帳交付時に専門の看護職が面接を行い、妊婦健診の受診勧奨のほか、様々な相談に応じる体制を取っている。
- 区役所で行う乳幼児健診の受診率は95%と高い。多くの子ども・お母さん方と接する貴重な機会と捉え丁寧なサービスをすることが、地域や行政が行う他のサポートにつながっていくと考えている。

### ◆情報の提供、他事業との連携について

- 育児本やインターネットなどの情報に踊らされ、焦りや不安を感じるお母さんの姿を目にするので、子どもの育ちを一緒に見守る人が地域の中にいることを伝えている。(山田)
- 地域子育て支援拠点1か所ですべての情報を収集することは難しい。より小さな地域の支援者と協力して人材やサークル等の情報を発掘・共有していくように努力している。(高村)
- 情報を欲するタイミングは一人ひとり異なるので、提供し続けるようにしている。(木村)
- こんにちは赤ちゃん訪問員がごく身近な子育て情報を直接伝えていることが、ニーズに合わせたタイムリーな情報提供の良い事例となっている。(中西)
- 情報を提供していても、届かない人もいるし、アンテナを張る余裕がなかったり、利用できない人もいて、そういった人達に支援の必要性が高いことが多い。(伊藤)
- 単に情報を提供するだけでなく、伝える中身や伝え方の工夫、情報を活用しやすくするためのサポートが必要になっている。(田中)
- 支援の必要性が高い人には、介護保険制度でいうところのケアマネジャー的な役割を持つ人が必要な段階になっていると感じている(伊藤)



### ◆担い手のモチベーションアップ・スキルアップについて

- こんにちは赤ちゃん訪問後、親子に再会する機会が少ないこともある。訪問を受けた側の感想などを把握して、訪問員にフィードバックできるとモチベーションとスキルが向上する。(山田)
- 地域子育て支援拠点に来るお母さんから、「ここがあるから二人目を産もうと思った」と聞いた時には感動した(高村)
- 子育てサポートシステムの提供会員が、自信を持ちつつ自分が役に立っていると実感できるように、情報交換できる場を設けることも、コーディネーターの大切な仕事の一つだと考えている。(木村)
- 活動の中で支援した人が、自分の大変な時期が終わった時に担い手側として活動に参加するようになると、私たちも力づけられる。また、サポーターの同窓会のようなものを開き、活動頻度が少ない支援者とのつながりが切れないう工夫をしている。(伊藤)

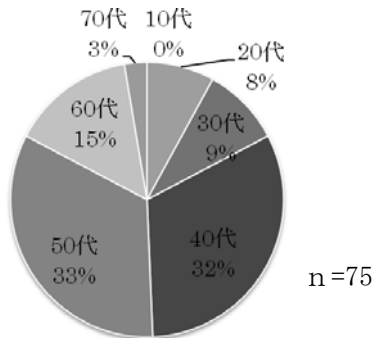
### ◆会場意見・質疑

- こんにちは赤ちゃん訪問員に悩みを聞いてもらえて良かったが、もっとアドバイスをもらえたり、専門家につないでもらえたりするしくみがあると良い。
- 利用者が、支援やサービスを受けた感想を声に出していくことで、事業が継続し改善されていく。
- 支援を行う NPO の活動に当事者側も参加するなど、欲しいサービスを待つだけでなく、つくっていくことも必要。

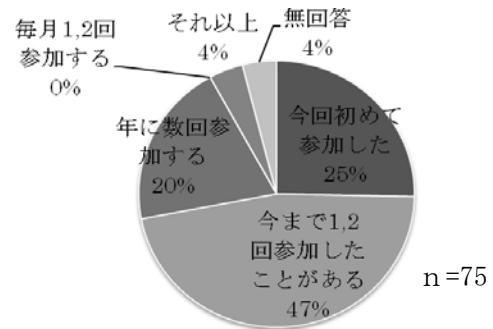


## 参加者アンケート集計結果

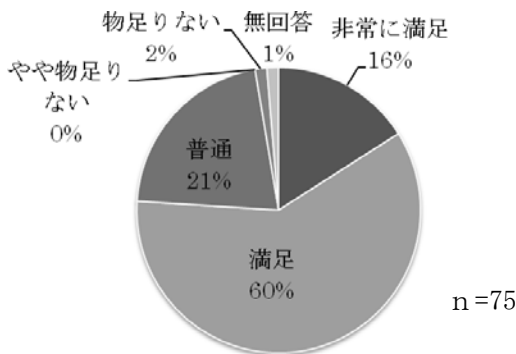
### ■年代



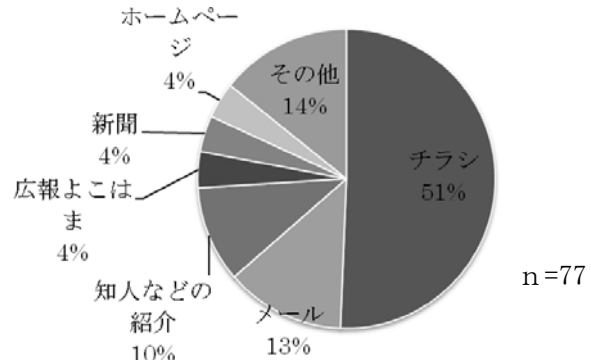
### ■子育て関連のシンポジウム等への参加の有無



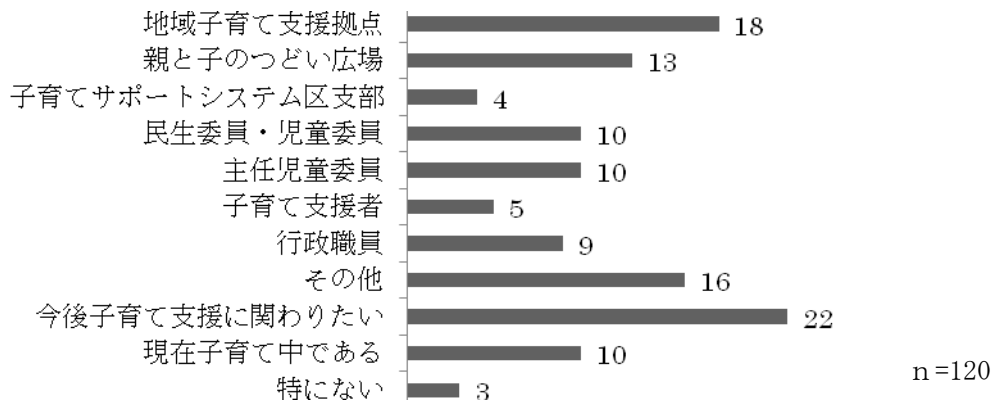
### ■内容について



### ■本日のシンポジウムを何で知りましたか



### ■子育て支援との関わりについて



### ■主な自由意見

- ・当事者の方の経験談だったので、話も面白く分かりやすかった。
- ・それぞれの立場からの支援の在り方をお聞きし、自分たちがやっている活動を振り返り、また明日から利用して下さる方達の為に、頑張っていこうと思いました。
- ・支援についての問題点等をみんなで考えあうきっかけにはなったが、もう少し問題点、必要な事、課題など見えるような深まりがほしかった。
- ・現役ママの意見、現場の意見、非常に勉強になりました。
- ・最近、子育て支援に関わりを持ち始めた者なので、現状の支援がよくわかった。地域や個人の取り組みが个性的であることを知り、これからの自分の活動に生かしていきたいと考えさせられた。
- ・勉強になりました。モチベーションアップは感謝されることなんですね。
- ・ここまで子育て支援が広がっているとは思いませんでした。近所づきあいの中での支援も大切かと思われれます。近所同志をつなげられる様な支援も必要では。
- ・支援に対する今後の課題などまだまだ沢山あると思うが自分がどのように関わっていけるのか、関わらなければいけないのか模索しながらやっていきたいと思う。